

小栗外傳二編



13  
3293  
10

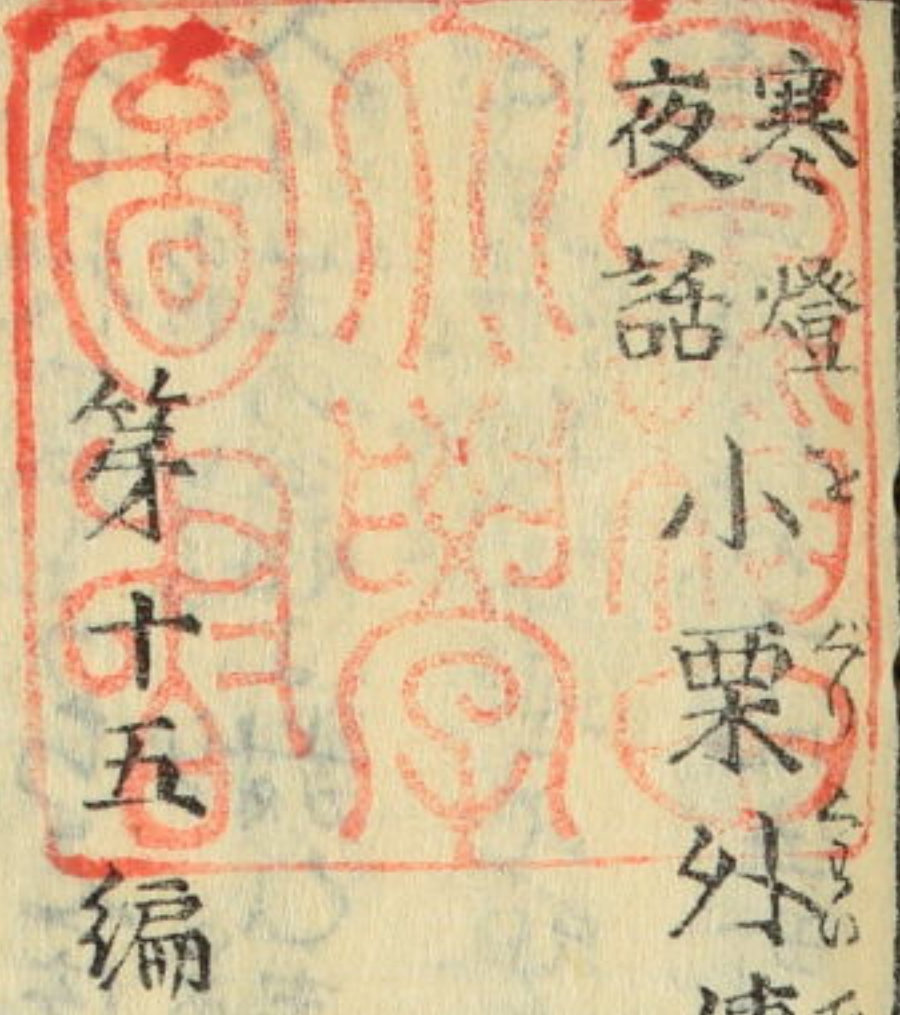


門へ 13  
蔵 3293  
巻 10

寒燈 小栗外傳 卷之九

東都

絳山歎酬陳人戲編



第十五編

忠義を以て女主の身を救ふ  
遺金を全して亡兄の志を果す

大正十八年九月九日  
本大學出版部

且説小栗助重ハ万長が許す抑留居ると。既三五日あも及びひくの此中  
万長夫婦。きまぐれ謀をなす。強く小栗と女婚と好しね。是小栗その心  
あつたといふも。あれを辞まふ。不良事生ず。禍の牙及んと。憐れ  
けり。婚縁を。其息を窺ひ。蜜も脱と去んと。あつたも万長との  
意を察し。ねれば一家のいのち命。悔ふから守衛し。けれると。病  
隙をひびいて居る。一日小栗先見。對ひ。ちんと近日まゝ病  
申す。今おこし。しと云はく。斯く。こめて居る。宜しき

小栗外傳 卷之九

一ゆもちほえど。時今三まの未だわが。四がの風は四時よ勝る。明日  
 夫婦結とも小郊外。萌生居候を摘花と尋ねて春遊させん  
 けり。ちほえどとせえり。花見の夫とともむえん。の娘く。あせ  
 は。楽しからん。中て此こと。父母は夢へて。その免されを切て。翌日  
 小栗元児。うちほえど。相川垂井里。なんと呻吟。氣を捜索。菜を摘む。  
 樂し。檀まり。小栗。さき。隙を窺ひ。走去んとせれど。花見傍とまひ。が  
 詮。え。ね。巻角。さる。得。ち。足も。勞。さ。ぬ。さ。ぶ。さ。の。茶。店。中。休。ひ。て。  
 人の社。ま。う。ち。ほ。え。ど。居。り。な。げ。よ。脚。夫。め。ま。は。漢。子。此。茶。店。中。休。ひ。て。  
 入。主。の。箱。は。對。ひ。青。墓。の。万。長。許。を。ゆ。め。あ。て。は。る。や。と。同。み。箱。ひ。  
 じ。と。彼。中。に。も。森。を。長。夏。の。山。斯。く。と。近。た。れ。と。道。  
 徑。曲。の。れ。が。十。四。五。町。が。や。ら。の。り。ぬ。道。此。中。中。休。ひ。て。一。椀。の。茶。を

汲て。ふ。の。ま。の。脚。夫。喜。び。茶。を。饒。ま。ぐ。我。亦。三。河。國。二。村。山。の。麓。の。老  
 たり。近。に。我。里。の。宗。丹。と。い。ふ。人。の。お。や。う。な。能。画。と。と。紙。が。ぬ。そ。の。人  
 先日。此。心。の。万。長。夏。の。許。は。ま。は。る。は。其。家。より。して。安。否。を。問。ん。と。ま。を  
 府。へ。て。使。ひ。ま。ね。と。お。話。を。は。る。小。栗。う。ち。ほ。え。ど。脚。夫。よ。う。い。ふ。足。下。の。草。を  
 宗。丹。の。基。る。の。家。の。何。事。ぞ。あ。り。し。や。と。い。ふ。脚。夫。の。答。ひ。て。さ。う。と。宗。丹  
 主。と。は。ゆ。め。と。宜。所。あ。て。え。奉。り。け。る。と。幸。い。な。小。栗。元。児。の。う。ち。ほ。え。ど  
 なり。と。首。お。掛。る。書。状。箱。と。り。て。小。栗。が。あ。ま。り。と。書。け。の。文。箱。を。む。き  
 これ。を。開。く。中。に。界。わ。り。ぬ。故。あ。り。て。君。万。長。許。は。い。つ。う。せ。め。あ。ま。り。と。ま  
 ち。ほ。え。ど。の。ま。の。子。細。を。な。ま。り。と。小。栗。首。を。傾。け。皆。付。沈。思。し。て。あ。ま。り。と。ま  
 ち。ほ。え。ど。の。首。お。掛。る。書。状。箱。と。り。て。小。栗。が。あ。ま。り。と。書。け。の。文。箱。を。む。き  
 ち。ほ。え。ど。の。首。お。掛。る。書。状。箱。と。り。て。小。栗。が。あ。ま。り。と。書。け。の。文。箱。を。む。き

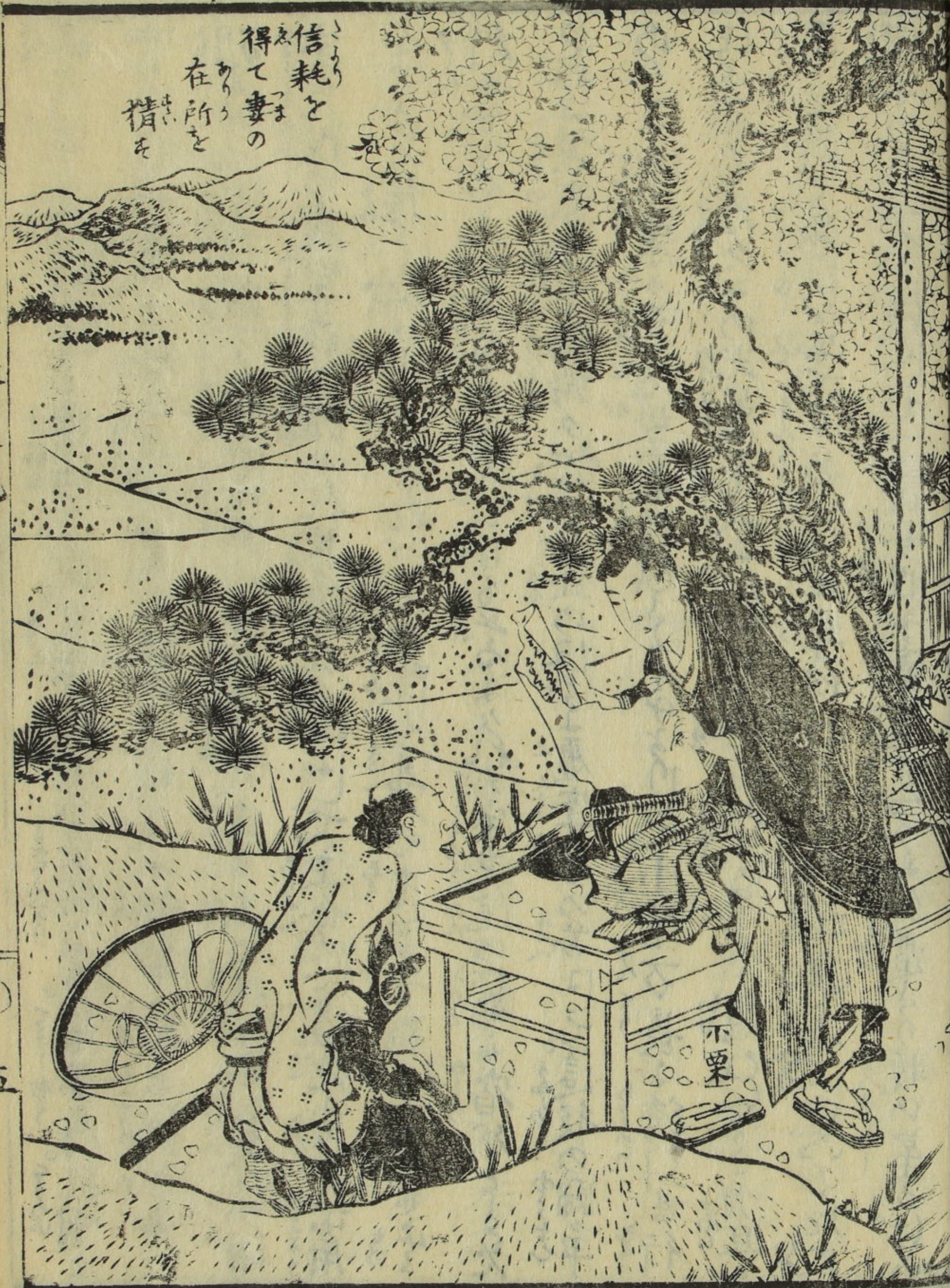
撈あきひ去いりぬる。此この首尾あひうら花見傍はなみわらに居ゐてゐるとしと書簡あてがひふゆりも記し  
 一いを知らぬ小栗こぐりは對むかひいつかは事ことぬとてねぞと問とへる家僕けやくの侍ざむらい  
 一の某そのが安否やすひを問とはるもて別の縁故ゆかりなりとさうのげなく回答こたへする。物ものは  
 さぬまれば花見不審はなみふしんかぎりなり。其書簡そのあてがひとてさうもいへると小栗こぐりは胸むねを懐なつかむ  
 ちかちか泣なくはえんともなうが。胸中むねうちごとく想おもひのまかり。免角めんかくとて  
 うち日も西ひ斜やよりぬれば奴婢こぞの輩ともかへり多おほくと信しん使し母はは小栗こぐり花見はなみもまら  
 ごとくうち連つれくさすも還かへりたる。花見はなみの前まへ刻ときの去い簡かんのふよかき。あはれは  
 顔かほも飲のみが。あはれは。さうも長ながが家いへは青柳あおやなぎといふ老妓らうきありと。  
 少すくく物の心こころを解げぬとて主ぬしもまごなれたりのと憂うれする。母ははと母はは青柳あおやなぎもさう  
 為な宜よろしめられしと念ねんずむとてさうもいへるともいへると。爾しからふ  
 今日けふ花見はなみをえよの還かへり。光景あきざねをえり。ふよおとあはれ。さうもいへるともいへると。爾しからふ  
 花見はなみをえよの還かへり。光景あきざねをえり。ふよおとあはれ。さうもいへるともいへると。爾しからふ

新あらく物安ものやすがる。光景あきざねをえり。ふよおとあはれ。さうもいへるともいへると。爾しからふ  
 やあらんと精せい。花見はなみを蜜みつする處ところへ招まねきおふとちの事ことはやまのり。さうもいへるともいへると。爾しからふ  
 花見はなみをえよの還かへり。光景あきざねをえり。ふよおとあはれ。さうもいへるともいへると。爾しからふ  
 の間まに何事なにごとも隠かくす。さうもいへるともいへると。爾しからふ  
 ありとさうもいへるともいへると。さうもいへるともいへると。爾しからふ  
 のさうもいへるともいへると。さうもいへるともいへると。爾しからふ  
 たり。あれは昔むかし契ちぎり。女おんな中ちゆう終しゆうくさす。さうもいへるともいへると。爾しからふ  
 謀まををさめ。合あ。脱だつ去しり。これをあはれ。陰かげ家けふ忍しのび。さうもいへるともいへると。爾しからふ  
 実まことを言いふ。知しると。今いま夜よ家け丹たん主ぬし。母はは父ちちえの。さうもいへるともいへると。爾しからふ  
 めあめ人ひと音ね同どうさる。不審ふしん。今日けふ使しをこ。ぬと。さうもいへるともいへると。爾しからふ  
 むらんと。公こう直ちゆう愛あい。さうもいへるともいへると。さうもいへるともいへると。爾しからふ

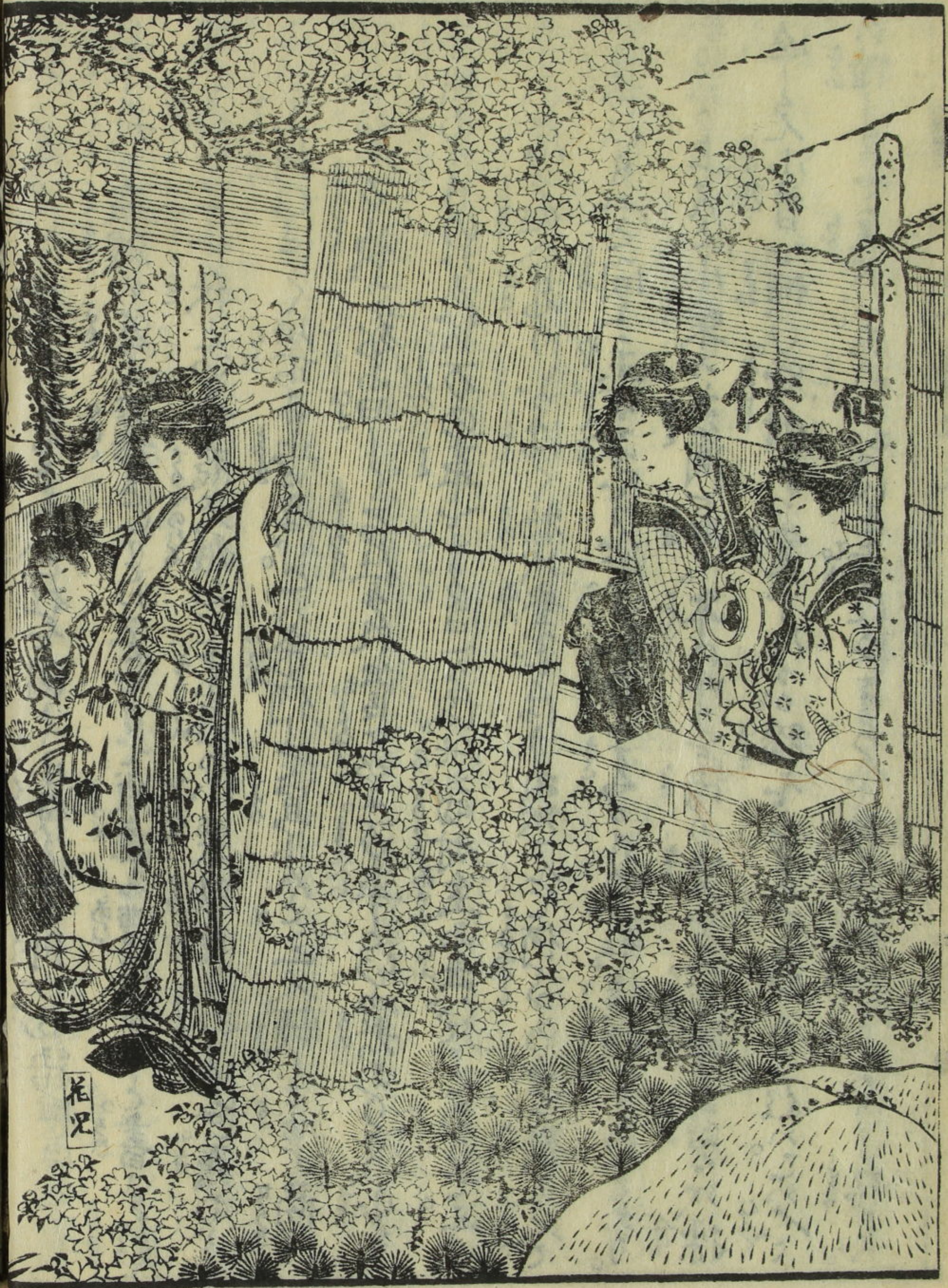
小萩を家お刃心じしちう此のゆきで流るまはし若小萩実か盗賊の爲に代母  
 連れゆら喜んで家へと帰すまきと云教と云小見かきりなくまはひ  
 その夜ま柳を教しまららひ小栗と水戸お合めて縁故をゆまく  
 思ひしと万長や小見が手前を憐れ盆の回意の書おまらまらひ  
 中ざりし今小見のあをゆたふ幸なりとまはひ俄か一封の書簡派まきま  
 小見もま其の家三列二村山の麓めて如此の地方なりと細中云教え  
 くれ小見これを受納め密か青柳お彼まきまゆいまもやかく長夫婦の  
 前よりち行有枝有まきま物結るまきま人密かその書簡を披見聞か  
 流る日お方を送りまきま船がらまきまて自らまきままは若我妻は還遣はる  
 まきまへ斯思かまきまあは想ひ合まきまあれまきまかまきまな縁故めて万長が  
 女児と袴か婚縁をなせり足彼のまきままきま遭人とまきま頻まきまの連

此地まきまじとまきまらまきまてを聞か小萩と家丹が物語せまきまて云  
 且小萩が盗賊の爲に奔るまきまてとなまきまて我妻か遭はるまきまて書まきまて  
 必し合まきま小萩といふ照天燈めて家丹小栗助重はお遠は爾おえ  
 ぬ小栗丹ひじく此のまきままきまてこの奈何して宜まきまてと人額を寄て商議  
 せり茲小万長が家お旧まきまて居仕まきまて管家まきまて万平といふ老ありの小ま  
 大角ありののまきまて万の事まきまてまきまて此の村主おまきまてありてと人  
 集お居る処へまきまてしう流く物か案まきまてまきまて何まきまてのめて斯まきまて  
 の集お居るかと問まきまて主万平まきまてまきまてまきまての事這般まきまてのこま  
 いまきまてと小栗かまきまて知まきまて年のまきまてを語りまきまてまきまて万平まきまて採  
 返まきまて小首を傾かまきまて射ら案まきまて膝をまきまてまきまてのまきまて  
 の精まきまてまきまてまきまてまきまてまきまてまきまてまきまてまきまてまきまて

信耗と  
得て妻の  
在る所を  
措く



不栗



花見

小野篁之九

東山

五

必まに謀はんとと蜜語を二人宛示し。其の良謀あり。張子房孔明と  
 かりんもいそ下下の智及かんとうち裁れく。いふ頼むと彼ま前を去て  
 列まろり。不在説下再説水戸小を即為久の去日主の信をほ。是は徳園  
 室光院の虚空を指す其祈り道はして主命により此の往て不用  
 をさすの縁と約せしことなれば室光院の藤母宿願とて先  
 行出をあらば兎角とほうち日も暮るまれば室光院の藤母宿願とて先  
 り其家の主が物語を父の昼のはと虚空を指すのまはして這般の闘争  
 のりまこと小栗が元見母子を救ひしうるよりして小栗万長は誘引を行  
 けることなる久その光景主人み似たれば先を此人あんと想ひし。二明且  
 至るまれば旅宿を去て万長が許し尋ね行んとて途途まで小山のぶとれた  
 漢子の五人がほどして一人の女性を牽きまする。其の遭るの曉の星うけぬ

さうしてこれの照天姫をてりしうる有きまらんと大漢子を斬散し。姫は  
 奈まひ返して奉の松を父の姫を父の姫を父の姫を父の姫を父の姫を父の  
 中での辨うくを詳し語り父を母主君助重万長が事あることと明白  
 知らる。姫を伴ひ行の害あらんと大懼れ心を迷ます。それよりまは姫を伴し  
 三列二村山の藤母を還り。主の帰るを俟たよ。五日たるといふとも。その  
 音同るまれば斯てらうと公りおく。自ら往く安不をまきまき入る。今  
 世中かかは山里の姫を一人変て是又安堵さばことなれば。詮ま入る。其  
 一討のま前を公め脚ま次席まで速に還りまると主の辨ま云かり。其  
 同意ぬ。我も心の時今便悪。まがて帰らんと。その時で列のまを記ま  
 姫もる久もまを解ま。心を傷めてありま。二日を隔く。一人の脚ま  
 まり。小を年主とていれぬ。やと同る。爾の小を年主。則ち其の何方の

使そとのあるや。これの足は國青墓を。体万長が許より。とて一紙の書面を。出さ  
を。久とて。ゆる。小を。即どの。家丹と。記。き。る。久。か。一。頂。き。封。公。断。く  
情。あ。が。前。日。汝。う。件。より。書。簡。を。尋。し。り。付。の。世。任。の。折。う。ら。めて。委。す。る。中  
とい。と。さ。の。れ。そ。も。く。某。宝。光。院。の。詣。一。付。此。國。昔。墓。の。体。万。長。が。母。子。と。  
彼。の。寺。の。詣。し。西。少。年。の。為。に。困。ら。ま。し。我。入。る。母。必。ひ。と。これ。を。救。ひ。が。  
遂。中。に。半。身。より。で。万。長。の。女。婿。と。お。れ。り。是。我。海。く。樂。忌。の。後。に。い。ふ。こと。の。  
多。くの。縁。故。の。ら。か。む。ひ。と。な。く。做。せ。る。ゆ。に。速。に。脱。身。入。る。と。い。は。れ。守。衛。の  
人。多。く。せ。り。人。中。擄。人。の。と。し。今。後。に。は。合。せ。ら。れ。る。守。衛。の。人。小。賂。て。脱  
生。を。し。け。い。う。こと。の。は。術。を。し。少。の。合。を。敷。置。す。此。人。は。勝。り。す。と。い。ふ。此。人  
のみ。我。の。心。を。傾。け。て。厚。く。公。を。と。る。者。に。少。も。疑。か。さ。う。と。い。は。れ。と。書。記。せ。り。  
為。久。の。主。の。身。跡。と。い。ひ。照。天。姫。の。女。は。は。る。こと。お。と。是。彼。ち。り。ひ。あ。ら。ま。疑。か

必。こ。必。命。中。立。妻。を。め。り。れ。し。と。約。を。定。め。て。別。と。け。り。小。を。即。為。久。之。脚。夫。と  
去。り。も。と。い。ふ。と。み。首。を。傾。け。て。金。の。出。す。術。を。思。惟。し。て。居。り。り。る。照。天。姫。の  
一。室。の。中。に。あ。り。て。前。刺。脚。夫。の。身。を。し。り。今。小。を。即。ち。物。を。安。ん。ん。給。す。と  
を。窺。ひ。て。居。り。し。世。を。忍。ぶ。身。入。目。を。憚。り。音。も。せ。て。潜。り。居。り。し。が。漸  
に。移。る。今。を。と。や。脚。夫。も。さ。き。き。ら。ん。と。静。に。小。を。即。ち。女。家。に。送。り  
よ。り。の。で。み。お。よ。く。き。き。り。我。妻。の。み。と。い。ふ。ゆ。ゆ。と。う。命。せ。に。し。ら。か。ど。よ。く。は。し。ね  
と。あ。り。な。れ。が。小。を。尋。は。し。む。き。半。身。の。ゆ。ゆ。と。移。る。彼。を。尋。り。て。照。天。の。あ。り。さ。し  
あ。き。脚。夫。と。の。お。話。を。よ。く。き。き。し。し。ら。し。り。殿。の。さ。せ。ま。め。な。な。い。し。  
照。天。の。あ。り。を。聞。き。し。ら。も。夫。の。字。も。あ。れ。が。不。守。ぬ。ら。ち。り。ち。め。く。前。刺。の  
脚。夫。の。い。ひ。は。る。と。く。鉄。城。の。圍。の。り。と。も。脱。身。入。と。お。話。を。あ。ら。ら。ん。と。脱。れ  
り。め。ら。り。し。や。恥。づ。ら。り。あ。ら。れ。ば。我。妻。元。見。が。多。香。も。ま。ま。い。ひ。永。く。彼。所。に



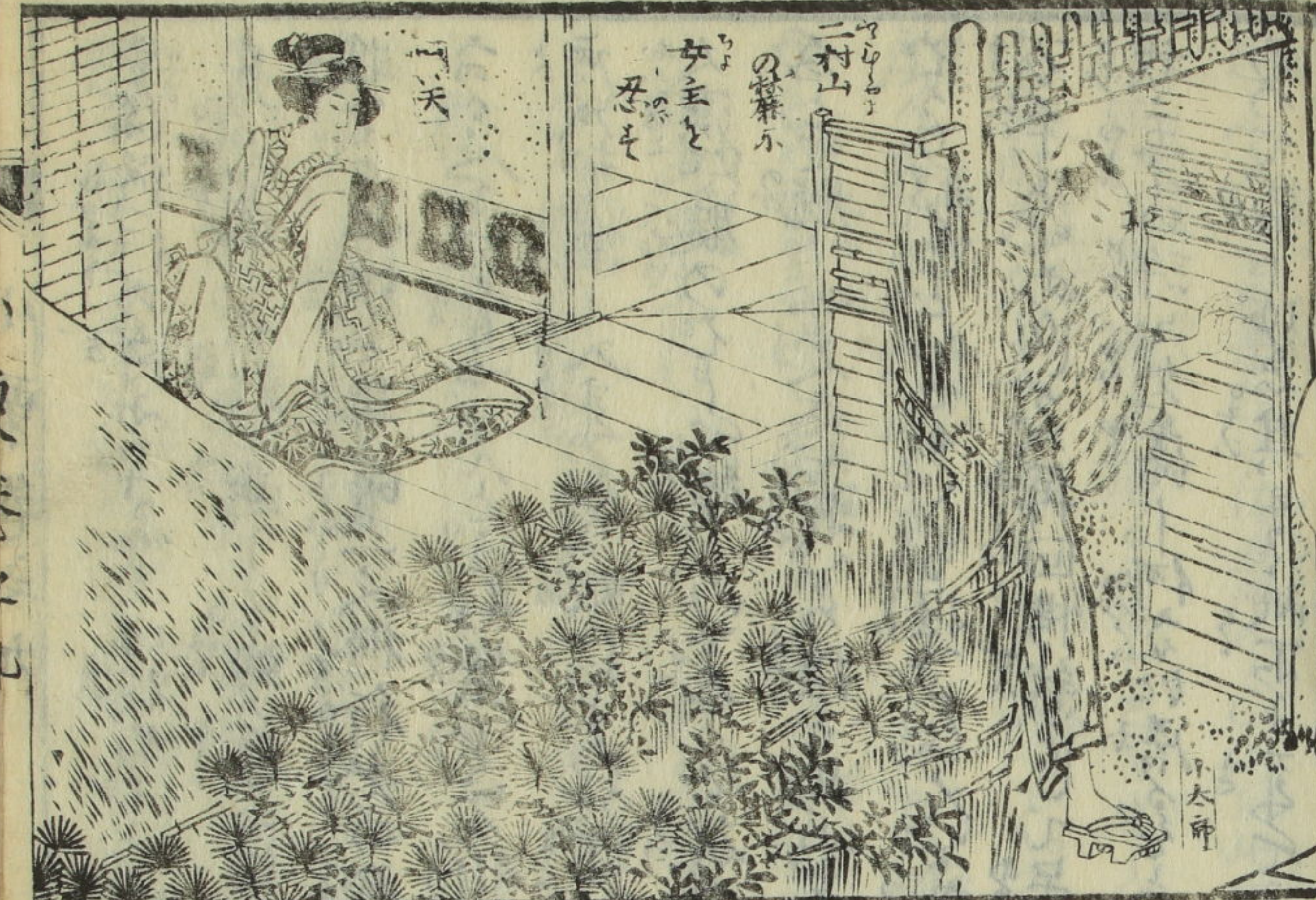
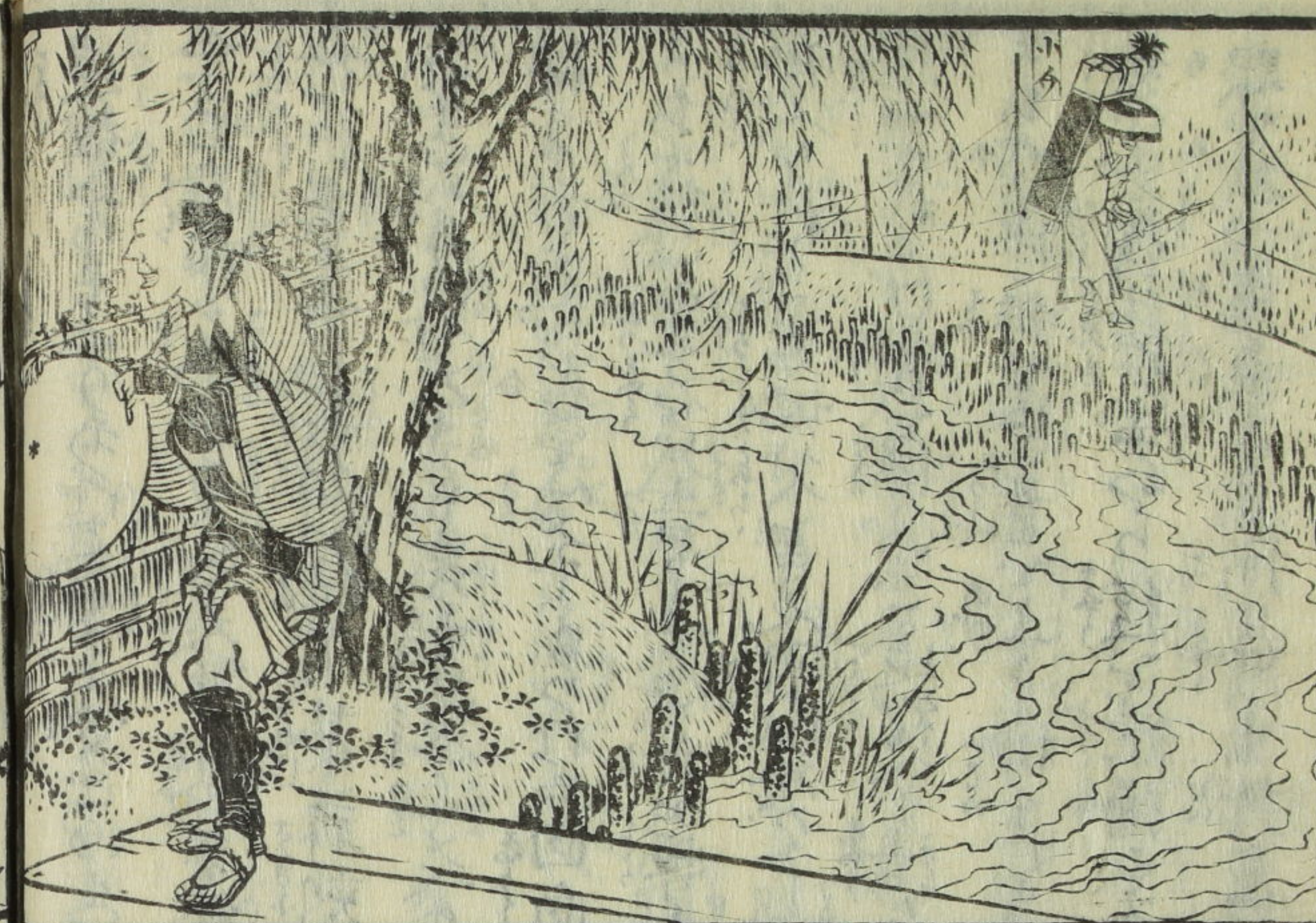
居らんとて今貝家と知修令のことと誠一終め此書簡の汝が父とて戈角の  
 身もねどりて罪とまじ主従の縁を断るるを恨めぬ涙も涙も涙も涙も  
 泣きながら分辨は姫君よ殿おめでた爾の志まらば一もいふに此は女官の  
 文とてか明白あらんを極ども姫君此ははばまを奉らるる言まらば  
 事次彼らと脱走も入心ならん泣くも疑ひもいとよ鬼まれ角すれ金を  
 ども洞へまゆじしつらに警備の公のちとしまとていも我を罪さひ入りて  
 彼もかこるといふも照天も氣を静め汝が泣き道はありのいふに速し金の  
 戈角洞へんともまづいふかことう金さほると小を即完示とらちあひまて  
 世の中は武士ならぬめり登るて飢寒も迫ると賊渠強盗とてなるといふ  
 はして主君の為るれば何れもとて厭ん必と今宵のうち金洞へ殿を救ひまわ  
 らしめては手帰は再會とてまじとせんと近日あつ喜びせぬと公おひけ  
 父こももつ照天姫賜しても盗泉のめを飲とてからんぬ今ものいひまら  
 ぶく不義非道とて今をばんと做らぬいとちを流し死事ありし決く  
 さあうの癖ことせとたえ一回の用を做とも天道いして免まらぬ忽ち悪報  
 を蒙て奈何なる禍も運も知るべし夫の危難を父おがらいつて唯まじき  
 ろんや爾のれ身に舟室まじ此う分けをせと金と銀と夫と救ひまわらせよ  
 と涙ながらに父と母と小を即流とてらくと流しこれに惜ま令れ明日もこ  
 めれ我君の還りもいと姫君のいの上を同らぬ何と回意とてとれ某不肖  
 なりらんとて十枚や廿枚俵の令れ戈角てはね事やあるはくを極まら  
 どもひと明日と思へ脚夫の身はる時めぬれが今夜の中も戈角せんか一人  
 ちかんと寂寥とも世付付せぬ入よとてはく出んとていふはくはくはくはくは  
 昔時よあつらふ百枚の令らぬとも容易戈角せぬ入るる零落もは

父こももつ照天姫賜しても盗泉のめを飲とてからんぬ今ものいひまら  
 ぶく不義非道とて今をばんと做らぬいとちを流し死事ありし決く  
 さあうの癖ことせとたえ一回の用を做とも天道いして免まらぬ忽ち悪報  
 を蒙て奈何なる禍も運も知るべし夫の危難を父おがらいつて唯まじき  
 ろんや爾のれ身に舟室まじ此う分けをせと金と銀と夫と救ひまわらせよ  
 と涙ながらに父と母と小を即流とてらくと流しこれに惜ま令れ明日もこ  
 めれ我君の還りもいと姫君のいの上を同らぬ何と回意とてとれ某不肖  
 なりらんとて十枚や廿枚俵の令れ戈角てはね事やあるはくを極まら  
 どもひと明日と思へ脚夫の身はる時めぬれが今夜の中も戈角せんか一人  
 ちかんと寂寥とも世付付せぬ入よとてはく出んとていふはくはくはくはくは  
 昔時よあつらふ百枚の令らぬとも容易戈角せぬ入るる零落もは

今の才也。いそいで俄小幾許の合れ出するや。あゝいとわらわのいとからや。今もついで  
身はるゝとのんをいね察する処今いひ。不義横道を做すのよし。こゝ  
才也。換うた宝のよし。我を仕へんとし。あゝいとわらわのいとからや。今もついで  
短刀をもちて。小太郎と云ふ人。置き置かぬをうて。こゝろをこゝろ。錦の依ふ  
へり。短刀をうて。紐を解き。靴を脱ぎ。熟くをこゝろ。明光くと四方で照し  
水のでん。又いふ久公。想ふや。某今夜。おんを。おんを。おんを。おんを。おんを。  
猪。才也。換うた宝のよし。悪事を止めると。我を憂恤もひつ。いそいで。こゝ  
忝。熟く。かひ。惟せ。いそいで。主君のよし。金のけしき。仇もなれ。人の命  
いそいで。いそいで。我も。浅猿や。原身。石を。做る。天罪。いそいで。道。いそいで。  
忽ち。罪科。おんを。せ。いそいで。我の。事。厭う。いそいで。いそいで。いそいで。いそいで。いそいで。  
才也。か。いそいで。人。爾。は。いそいで。忠。我。の。いそいで。不如。姫。の。命。おんを。いそいで。短刀を

誓村のらちく。おんを。いそいで。入用の。合。おんを。いそいで。おんを。いそいで。おんを。いそいで。  
命。有。いそいで。いそいで。おんを。いそいで。甲斐。いそいで。おんを。いそいで。おんを。いそいで。おんを。いそいで。  
宜。か。いそいで。いそいで。おんを。いそいで。いそいで。いそいで。いそいで。いそいで。いそいで。いそいで。  
りて。金。おんを。いそいで。いそいで。いそいで。いそいで。いそいで。いそいで。いそいで。いそいで。いそいで。  
携。いそいで。いそいで。いそいで。いそいで。いそいで。いそいで。いそいで。いそいで。いそいで。いそいで。  
いそいで。いそいで。いそいで。いそいで。いそいで。いそいで。いそいで。いそいで。いそいで。いそいで。  
悲。いそいで。いそいで。いそいで。いそいで。いそいで。いそいで。いそいで。いそいで。いそいで。いそいで。  
の。いそいで。いそいで。いそいで。いそいで。いそいで。いそいで。いそいで。いそいで。いそいで。いそいで。  
終。いそいで。いそいで。いそいで。いそいで。いそいで。いそいで。いそいで。いそいで。いそいで。いそいで。  
後。いそいで。いそいで。いそいで。いそいで。いそいで。いそいで。いそいで。いそいで。いそいで。いそいで。  
いそいで。いそいで。いそいで。いそいで。いそいで。いそいで。いそいで。いそいで。いそいで。いそいで。





牙を負くてさうぐしれ物もさるるに  
 おもひささかたなれと今夜回回と頼  
 られ布施の澄みなきさうぐしれ物も  
 めひ福と一面の鏡と中へ係修行者  
 登るたすい思ひけむとさうぐしれ物も  
 言や。姫の影をらち守アと有るる  
 かのつて云られ今夜宿じまると  
 こころは法謝と存ぞうぬいうで別  
 賜成受まぬとされこころと鏡を  
 らつては戻せぬ姫再之再四と止  
 さうぐしれ修行者とわ戴ひて黙

着る蜀江の錦手裏八段の流る  
 これとさうぐしれ頻小涙と墮せぬか  
 鏡成受おさめ志の施物受すわじ  
 ありふさご家主も還多るがね斯  
 中とこれなく畏られ今日さうぐし  
 芳とぬと頻小睡と作すてかくと  
 りぬ垢と尾の龍まへとさうぐしれ  
 蒙りて一睡といはしとさうぐしれ  
 這裡お入あつてさうぐしれ就と入  
 負家おとさうぐしれ令衣もぬぐい  
 恥かまじとさうぐしれ野山宿

と係修行の身ありき。その物ありては家主の還ア身まさらぬ。おとし  
 るへん系しと礼を述べと。姫の教おほは。は。一室の裡にたち入て枕を就く  
 睡ア多。姫と跡唯一入修行者の辨た。いと怪しとて。修考へ。何  
 ある人にて。首カ人とうち。紫さる折うらに。外方俄に。周しく。五二人の大漢子  
 戸破り倒し入。身ま。姫のおと。迷ひは。奥の方お走。入る。前お進。し  
 大漢子腕のむ。て襟がみを。と捉へ。引戻し。い。小鞆新。入る。う。と。と。  
 ると。脱し。おと。き。て我。誰と。お。と。云。お。照。天。の。ま。も。消。く。ゆ。も。失。さ。る。  
 どの。形。ま。と。お。と。る。く。も。捉へ。人。と。熟。く。ら。ち。着。と。六。万。長。が。髪。お。か。な。れ。  
 万。平。お。と。め。り。く。再。回。愕。然。と。して。呆。然。と。る。万。平。呵。こ。ら。ち。笑。ひ。お。の。き。  
 我。主。人の。許。と。欠。落。し。何。方。に。居。る。と。多。く。ふ。行。能。と。捜。索。求。し。お。志。ね。と。の  
 ぬ。つ。て。告。し。ゆ。急。其。身。此。亦。身。ま。て。え。れ。が。告。る。身。差。り。と。此。家。に。居。居。と。よ。

思。あ。は。汝。を。奪。ひ。く。係。盗。人。と。い。ふ。此。家。の。主。お。て。こ。と。の。り。を。は。名。を。何。と  
 申。ぞ。何。方。に。居。ま。居。る。と。と。と。と。牛。の。尾。に。り。き。せ。て。罵。叫。く。せ。亦。く。美。し。く  
 小。を。即。為。久。と。申。う。多。く。今。を。測。へ。く。ま。ま。し。姫。の。待。ま。り。ん。と。心。急。しく。ち  
 戻。り。我。家。の。門。辺。お。身。ま。は。る。と。た。お。裡。お。人。の。い。ま。ま。く。声。と。聞。しく。ゆ。こ  
 る。と。い。お。驚。ま。は。け。走。入。と。と。れ。が。を。姫。や。姫。君。と。四。人。と。手。を。あ。せ。狼。籍  
 と。お。光。景。お。れ。が。言。を。も。い。と。と。指。か。す。姫。を。捉。へ。一。万。平。と。と。て。彼。お。よ。投  
 け。け。ら。姫。を。か。ら。あ。て。ま。り。け。ア。万。平。教。を。あ。ら。は。け。ま。上。ら。て。小。を。即。と。熟。く  
 と。着。て。ま。り。ま。は。り。我。お。お。抱。へ。此。女。盗。を。れ。は。を。か。り。く。と。ヨ。守。向。り。て  
 連。ゆ。く。妨。る。と。ら。盗。人。と。い。ふ。く。女。を。腹。さ。す。ら。知。縣。に。訴。へ。て。汝。罪。を。犯。さん  
 と。言。語。あ。ら。く。は。四。馬。と。い。ふ。小。を。即。を。念。と。想。へ。とも。荒。う。て。る。が。悪。う。り。り。ん。と  
 怒。と。お。さ。入。言。を。和。め。我。を。り。て。盗。人。と。思。ひ。考。へ。も。道。行。たり。我。ら。の。三。月。の

未<sup>ま</sup>つ<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>。所用<sup>しよう</sup>め<sup>ら</sup>て美<sup>み</sup>濃<sup>のう</sup>國<sup>くわ</sup>青<sup>せい</sup>墓<sup>ぼ</sup>の宿<sup>しゆく</sup>を朝<sup>あさ</sup>ま<sup>ご</sup>ら<sup>れ</sup>よ。通<sup>とほ</sup>りか<sup>さ</sup>る<sup>る</sup>ど<sup>り</sup>  
うら<sup>ら</sup>ぬ。三<sup>さん</sup>四<sup>し</sup>人<sup>にん</sup>の大<sup>たい</sup>漢<sup>かん</sup>子<sup>し</sup>。一<sup>いつ</sup>人<sup>にん</sup>の女<sup>にょ</sup>性<sup>せい</sup>を牽<sup>ひ</sup>き<sup>と</sup>り<sup>て</sup>連<sup>れん</sup>行<sup>ぎやう</sup>さ<sup>る</sup>も不<sup>ふ</sup>審<sup>しん</sup>さ<sup>る</sup>近<sup>ちか</sup>き<sup>あ</sup>  
ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>さ<sup>じ</sup>し<sup>よ</sup>う<sup>う</sup>て。さ<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>は傷<sup>いた</sup>ま<sup>す</sup>。此<sup>こゝ</sup>女<sup>にょ</sup>と<sup>も</sup>亦<sup>また</sup>由<sup>よし</sup>緒<sup>じゆ</sup>の<sup>り</sup>の<sup>り</sup>な<sup>ら</sup>ば子<sup>こ</sup>細<sup>さい</sup>と<sup>ら</sup>ら<sup>じ</sup>  
大<sup>たい</sup>漢<sup>かん</sup>子<sup>し</sup>と<sup>も</sup>右<sup>みぎ</sup>と<sup>も</sup>左<sup>ひだり</sup>と<sup>も</sup>九<sup>く</sup>小<sup>せう</sup>逐<sup>しゆく</sup>去<sup>さ</sup>じ<sup>は</sup>ひ<sup>ひ</sup>還<sup>かへ</sup>り<sup>て</sup>縁<sup>えん</sup>故<sup>こ</sup>と<sup>も</sup>同<sup>どう</sup>人<sup>にん</sup>商<sup>しやう</sup>人<sup>にん</sup>も<sup>も</sup>引<sup>ひ</sup>  
万<sup>まん</sup>長<sup>ちやう</sup>が<sup>が</sup>汗<sup>あせ</sup>と<sup>も</sup>賣<sup>う</sup>り<sup>て</sup>彼<sup>か</sup>亦<sup>また</sup>あ<sup>ら</sup>う<sup>ら</sup>ち不<sup>ふ</sup>意<sup>い</sup>盗<sup>たう</sup>人<sup>にん</sup>の<sup>の</sup>み<sup>み</sup>を<sup>を</sup>棄<sup>す</sup>れ<sup>て</sup>こ<sup>の</sup>罪<sup>つみ</sup>  
た<sup>ら</sup>く<sup>く</sup>及<sup>およ</sup>び<sup>ぬ</sup>と<sup>も</sup>決<sup>けつ</sup>り<sup>て</sup>皆<sup>みな</sup>同<sup>どう</sup>さ<sup>る</sup>。今<sup>いま</sup>日<sup>にち</sup>ま<sup>ま</sup>で<sup>で</sup>ち<sup>ぢ</sup>拾<sup>しやく</sup>遺<sup>い</sup>さ<sup>る</sup>。今<sup>いま</sup>日<sup>にち</sup>ま<sup>ま</sup>で<sup>で</sup>ち<sup>ぢ</sup>拾<sup>しやく</sup>遺<sup>い</sup>さ<sup>る</sup>。今<sup>いま</sup>日<sup>にち</sup>ま<sup>ま</sup>で<sup>で</sup>ち<sup>ぢ</sup>拾<sup>しやく</sup>遺<sup>い</sup>さ<sup>る</sup>。  
似<sup>に</sup>れ<sup>れ</sup>ど<sup>も</sup>夢<sup>ゆめ</sup>と<sup>も</sup>摸<sup>もつ</sup>通<sup>つう</sup>さ<sup>る</sup>と<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>じ<sup>い</sup>う<sup>う</sup>と<sup>も</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>して金<sup>かね</sup>洞<sup>どう</sup>へ<sup>へ</sup>女<sup>にょ</sup>性<sup>せい</sup>の<sup>の</sup>才<sup>さい</sup>價<sup>げ</sup>  
僕<sup>ぼく</sup>ら<sup>ら</sup>ん<sup>ん</sup>と<sup>も</sup>思<sup>おも</sup>へ<sup>て</sup>今<sup>いま</sup>日<sup>にち</sup>ま<sup>ま</sup>で<sup>で</sup>延<sup>えん</sup>り<sup>せ</sup>り<sup>と</sup>叔<sup>しやく</sup>又<sup>また</sup>今<sup>いま</sup>の<sup>の</sup>才<sup>さい</sup>價<sup>げ</sup>の<sup>の</sup>と<sup>と</sup>足<sup>そ</sup>下<sup>げ</sup>の<sup>の</sup>才<sup>さい</sup>上<sup>じやう</sup>知<sup>ち</sup>  
され<sup>ば</sup>盗<sup>たう</sup>人<sup>にん</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>や</sup>と<sup>も</sup>思<sup>おも</sup>ふ<sup>ら</sup>は<sup>は</sup>し<sup>し</sup>と<sup>も</sup>な<sup>ら</sup>ば及<sup>およ</sup>び<sup>ぬ</sup>と<sup>も</sup>是<sup>こゝ</sup>の<sup>の</sup>み<sup>み</sup>水<sup>みづ</sup>は<sup>は</sup>して  
何<sup>なに</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>此<sup>こゝ</sup>女<sup>にょ</sup>性<sup>せい</sup>と<sup>も</sup>我<sup>われ</sup>に<sup>に</sup>さ<sup>じ</sup>し<sup>よ</sup>う<sup>う</sup>に<sup>に</sup>保<sup>たも</sup>つ<sup>た</sup>ま<sup>ま</sup>其<sup>その</sup>才<sup>さい</sup>價<sup>げ</sup>を<sup>を</sup>幾<sup>いく</sup>許<sup>きよ</sup>と<sup>も</sup>云<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>万<sup>まん</sup>平<sup>へい</sup>面<sup>めん</sup>と  
和<sup>わ</sup>ら<sup>ば</sup>是<sup>こゝ</sup>下<sup>げ</sup>に<sup>に</sup>さ<sup>じ</sup>し<sup>よ</sup>う<sup>う</sup>に<sup>に</sup>保<sup>たも</sup>つ<sup>た</sup>ま<sup>ま</sup>な<sup>ら</sup>ば及<sup>およ</sup>び<sup>ぬ</sup>と<sup>も</sup>主<sup>しゆ</sup>家<sup>か</sup>の<sup>の</sup>み<sup>み</sup>益<sup>えき</sup>さ<sup>る</sup>れ<sup>ば</sup>平<sup>へい</sup>面<sup>めん</sup>は<sup>は</sup>

それ<sup>が</sup>奉<sup>ほう</sup>ふ<sup>る</sup>ま<sup>り</sup>と<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>て</sup>サ<sup>サ</sup>心<sup>しん</sup>を<sup>を</sup>流<sup>なが</sup>す<sup>る</sup>過<sup>あや</sup>まり<sup>し</sup>奉<sup>ほう</sup>ふ<sup>る</sup>除<sup>ぞ</sup>て高<sup>かう</sup>儀<sup>ぎ</sup>せん  
とも<sup>も</sup>く此<sup>こゝ</sup>女<sup>にょ</sup>性<sup>せい</sup>の<sup>の</sup>主<sup>しゆ</sup>人<sup>にん</sup>万<sup>まん</sup>長<sup>ちやう</sup>尾<sup>び</sup>張<sup>ちやう</sup>國<sup>くわ</sup>へ<sup>へ</sup>住<sup>す</sup>ま<sup>り</sup>と<sup>も</sup>人<sup>にん</sup>商<sup>しやう</sup>人<sup>にん</sup>の<sup>の</sup>才<sup>さい</sup>上<sup>じやう</sup>知<sup>ち</sup>  
見<sup>み</sup>ら<sup>れ</sup>し<sup>が</sup>眉<sup>まゆ</sup>目<sup>め</sup>容<sup>よう</sup>貌<sup>ぼう</sup>の<sup>の</sup>美<sup>み</sup>麗<sup>れい</sup>な<sup>ら</sup>ば娼<sup>あせ</sup>妓<sup>ぎ</sup>と<sup>も</sup>想<sup>おも</sup>ふ<sup>ら</sup>る<sup>ら</sup>。四<sup>し</sup>百<sup>ひやく</sup>貫<sup>くわん</sup>文<sup>ぶん</sup>を  
買<sup>か</sup>ひ<sup>て</sup>は<sup>は</sup>い<sup>い</sup>還<sup>かへ</sup>り<sup>ま</sup>し<sup>し</sup>と<sup>も</sup>云<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>性<sup>せい</sup>強<sup>きやう</sup>く<sup>く</sup>主<sup>しゆ</sup>の<sup>の</sup>命<sup>めい</sup>に<sup>に</sup>露<sup>ろ</sup>任<sup>にん</sup>せ<sup>せ</sup>と<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>  
娼<sup>あせ</sup>妓<sup>ぎ</sup>の<sup>の</sup>才<sup>さい</sup>上<sup>じやう</sup>知<sup>ち</sup>と<sup>も</sup>命<sup>めい</sup>と<sup>も</sup>縮<sup>ちゆく</sup>人<sup>にん</sup>光<sup>かう</sup>景<sup>けい</sup>に<sup>に</sup>買<sup>か</sup>ひ<sup>て</sup>は<sup>は</sup>い<sup>い</sup>還<sup>かへ</sup>り<sup>ま</sup>し<sup>し</sup>と<sup>も</sup>主<sup>しゆ</sup>も<sup>も</sup>始<sup>はじめ</sup>り<sup>て</sup>除<sup>ぞ</sup>  
下<sup>げ</sup>婢<sup>ひ</sup>と<sup>も</sup>好<sup>この</sup>し<sup>し</sup>置<sup>お</sup>き<sup>て</sup>斯<sup>かく</sup>む<sup>む</sup>ら<sup>ら</sup>お<sup>お</sup>る<sup>る</sup>縁<sup>えん</sup>故<sup>こ</sup>な<sup>ら</sup>ば本<sup>ほん</sup>價<sup>げ</sup>と<sup>も</sup>賣<sup>う</sup>り<sup>て</sup>は<sup>は</sup>い<sup>い</sup>還<sup>かへ</sup>り<sup>ま</sup>し<sup>し</sup>と<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>  
其<sup>その</sup>數<sup>すう</sup>の<sup>の</sup>錢<sup>せん</sup>と<sup>も</sup>換<sup>か</sup>へ<sup>り</sup>と<sup>も</sup>云<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>小<sup>せう</sup>を<sup>を</sup>即<sup>すなは</sup>ち<sup>ち</sup>頭<sup>かぶ</sup>首<sup>くび</sup>に<sup>に</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>か<sup>か</sup>も<sup>も</sup>云<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>一<sup>いつ</sup>價<sup>げ</sup>と<sup>も</sup>買<sup>か</sup>ひ<sup>て</sup>は<sup>は</sup>い<sup>い</sup>還<sup>かへ</sup>り<sup>ま</sup>し<sup>し</sup>と<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>  
さ<sup>ら</sup>も今<sup>いま</sup>急<sup>いそ</sup>ぐ<sup>ぐ</sup>に<sup>に</sup>錢<sup>せん</sup>と<sup>も</sup>換<sup>か</sup>へ<sup>り</sup>と<sup>も</sup>云<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>此<sup>こゝ</sup>月<sup>げつ</sup>の<sup>の</sup>未<sup>ま</sup>だ<sup>だ</sup>で<sup>で</sup>行<sup>い</sup>ね<sup>ね</sup>万<sup>まん</sup>平<sup>へい</sup>首<sup>くび</sup>と<sup>も</sup>左<sup>ひだり</sup>右<sup>みぎ</sup>と<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>  
あり<sup>ら</sup>。も<sup>も</sup>成<sup>なり</sup>が<sup>が</sup>ど<sup>ど</sup>辛<sup>から</sup>く<sup>く</sup>と<sup>も</sup>漸<sup>すす</sup>く<sup>く</sup>と<sup>も</sup>存<sup>ぞん</sup>ず<sup>ず</sup>り<sup>り</sup>此<sup>こゝ</sup>女<sup>にょ</sup>と<sup>も</sup>その<sup>の</sup>才<sup>さい</sup>上<sup>じやう</sup>知<sup>ち</sup>足<sup>そ</sup>下<sup>げ</sup>に<sup>に</sup>賣<sup>う</sup>り<sup>て</sup>は<sup>は</sup>い<sup>い</sup>還<sup>かへ</sup>り<sup>ま</sup>し<sup>し</sup>と<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>  
素<sup>す</sup>直<sup>じやく</sup>に<sup>に</sup>歸<sup>かへ</sup>り<sup>て</sup>主<sup>しゆ</sup>に<sup>に</sup>對<sup>たい</sup>ひ<sup>ひ</sup>何<sup>なに</sup>と<sup>も</sup>云<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>有<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>き<sup>き</sup>ぞ<sup>ぞ</sup>是<sup>こゝ</sup>の<sup>の</sup>事<sup>こと</sup>は<sup>は</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>し<sup>し</sup>や<sup>や</sup>。錢<sup>せん</sup>の<sup>の</sup>  
あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>じ<sup>い</sup>女<sup>にょ</sup>と<sup>も</sup>後<sup>ご</sup>と<sup>も</sup>云<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>姫<sup>ひめ</sup>の<sup>の</sup>才<sup>さい</sup>上<sup>じやう</sup>知<sup>ち</sup>と<sup>も</sup>行<sup>い</sup>く<sup>く</sup>と<sup>も</sup>小<sup>せう</sup>を<sup>を</sup>即<sup>すなは</sup>ち<sup>ち</sup>頭<sup>かぶ</sup>首<sup>くび</sup>に<sup>に</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>か<sup>か</sup>も<sup>も</sup>云<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>一<sup>いつ</sup>價<sup>げ</sup>と<sup>も</sup>買<sup>か</sup>ひ<sup>て</sup>は<sup>は</sup>い<sup>い</sup>還<sup>かへ</sup>り<sup>ま</sup>し<sup>し</sup>と<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>

推せぬ。足下の云い道にさぐり。此女は東の間に人手に渡さるるに  
 是非く我か終て一生涯思ふ事やとふ能うな万平と子をば  
 顔と地ははくかきは説き頼むも万平不意おりらめて。いふも  
 女もあれ一日二日別るとも。なご堪えん半やあれ。そもく奈何なる縁故  
 めて。云はるぞ。何ういれ包まで語り交う。辨はるる。耻まへるべし。少  
 ども。他らる。女は連行へ。いふ。小き郎身の上。いふ。人とも。世と  
 思ふ。主の身の人。明えと胸苦しく。回意さ。は。俯ひく。居る。万平  
 これとらへ。欺笑て。さうりける。男。似げ。白痴。この光景  
 みて。金。角。足。木。く。おぼ。ゆ。なり。い。お。れ。の。小。か。隙。費。の。益。益。の。  
 や。此。家。の。主。の。斯。く。居。ると。も。甲。斐。な。い。事。あ。る。べ。し。今  
 女と連行を金の角。潤。其。令。り。て。是。の。宿。の。宿。の。旅。店。と。

万長と尋ね。金と女。引。替。に。して。中。と。寛。く。と。姫。の。身。を。つ。て  
 連行を。情。さ。し。小。太。郎。が。止。む。腕。と。万。平。が。放。ち。ま。ん。じ。二。人。平。か  
 其。處。一。室。の。紙。門。の。裡。り。て。い。く。中。家。主。お。言。ひ。さ。ん。今。夜。五。更。の。宿。錢。を  
 与へ。侍。人。詰。ま。ね。と。確。と。投。出。と。一。包。封。め。切。れ。て。棟。梁。の。を。散。せ。光。景。よ  
 小。を。尋。ね。は。ら。も。云。ひ。と。姫。万。平。も。愕。然。と。敬。言。は。し。て。言。は。し。て。紙。門。の  
 裡。り。て。今。夕。へ。宿。跡。を。ま。じ。か。れ。用。を。足。し。ま。へ。と。云。ひ。小。を。郎。言。を。正。し  
 故。ら。宝。を。得。け。り。と。深。く。恥。ら。ふ。と。ま。ら。今。危。急。の。時。な。ら。ば。辞。さ。る。る。ま。ら  
 借。受。ら。り。鬼。用。の。後。めて。理。ら。ん。と。云。は。り。散。り。今。を。集。め。数。へ。と。い。れ。ば。万。平。が  
 望。む。知。の。金。に。教。え。合。へ。ば。好。く。お。裁。き。こ。の。忝。しく。や。万。平。よ。お。こ。う。望。む  
 の。金。無。い。ま。の。女。性。を。お。ひ。て。さ。り。行。帰。と。今。ま。あ。れ。ば。万。平。の。志。が。今。ま。集。り。て  
 け。今。ま。の。仔細。と。云。ひ。女。は。そ。ち。へ。と。連。行。し。男。を。引。連。て。外。方。へ。こ。と。

出行ぬ。そもく万平が此所よまりし。照天を誘ひ還り。知らぬまをたほへ。其に小栗は思ひ明らませ。花見と承く夫婦たふあんとせし。小栗は不意令をばく。姫の才代を僕ひし。其謀室く。なりたれ。紙門のうら。金爪投。女へのの。誰そ。その下回。説解を。説て。知多人。

第十六編

兩雄議て居を濃州に移す。姫婦怒て怨を草廬に述ぶ。

且流その時。照天姫を万平が出行後背をえ送りて。小栗郎より。對ひ。奴。前。よ。せ。と。ゆ。べき。と。万平が。狼藉。よ。は。き。れ。て。云。さ。り。き。おん。と。か。家。よ。居。く。な。ら。ん。一人の修行者。宿借して。彼。よ。は。床。に。置。り。只。今。金。を。投。入。し。の。必。定。彼。の。修行者。と。あ。ん。と。い。ふ。と。云。さ。ら。ち。小。栗。郎。の。何。の。所。謂。あり。て。多。くの。英。令。を。あ。へ。や。と。不。審。ま。ま。紙。門。を。披。き。ま。し。り。の。な。ん。の。こ。の。も。も。何。

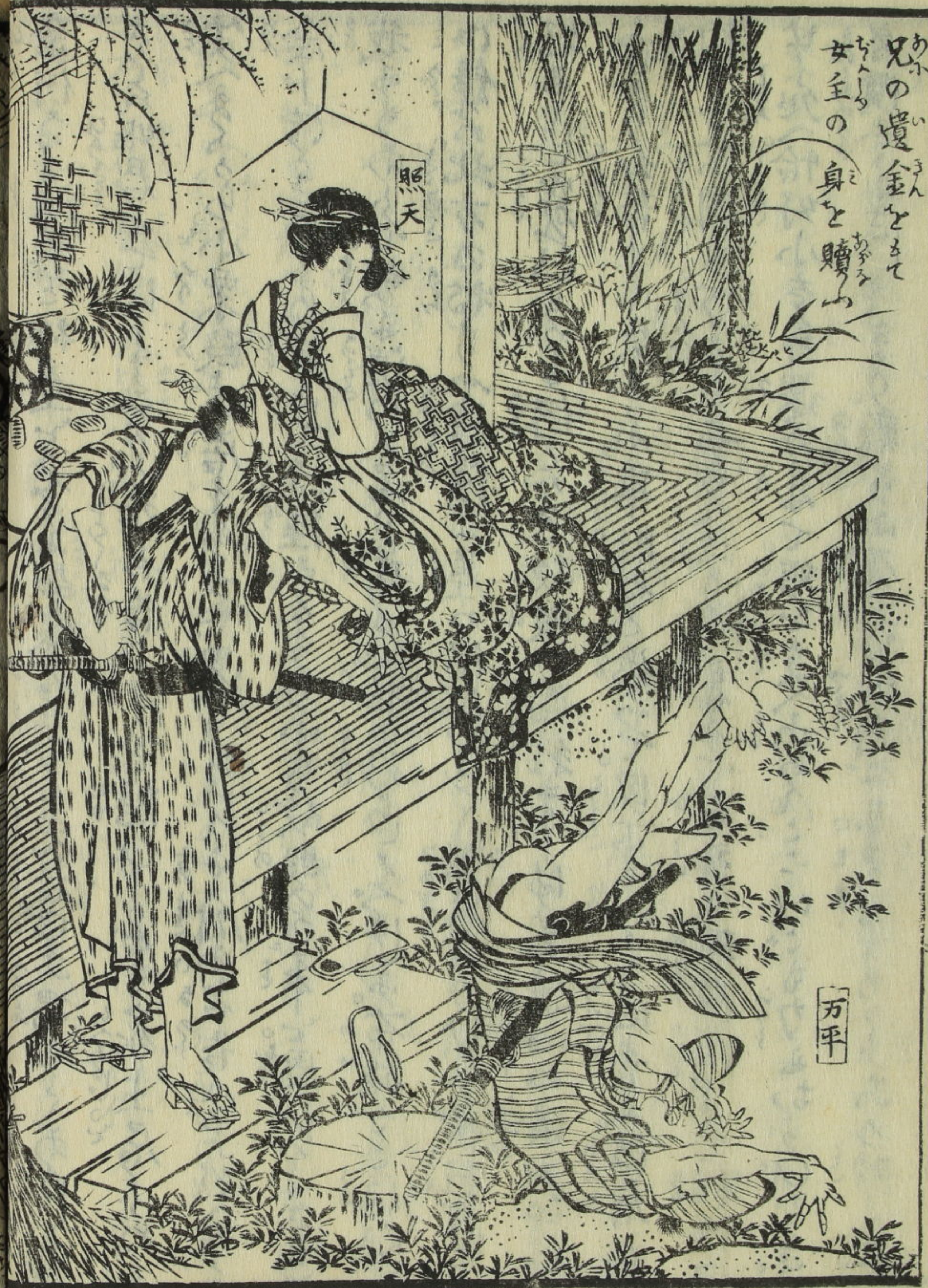
伯父より。後。小。助。の。修行者。の。姿。を。打。扮。て。ま。し。り。小。太。郎。と。言。ふ。と。其。時。小。女。の。姫。は。啖。然。と。驚。れ。ぬ。と。も。言。ひ。い。は。し。て。只。呆。れ。て。居。り。た。れ。其。時。小。女。の。姫。は。對。ひ。平。伏。し。某。の。由。家。譜。代。の。由。家。隸。後。小。女。の。P。の。之。は。何。と。云。つ。小。栗。郎。を。願。い。し。母。甥。の。と。の。終。く。音。は。れ。た。伯。父。が。光。景。さ。も。驚。れ。ぬ。と。我。も。ま。ま。汝。が。姫。君。を。傳。き。此。亦。母。居。る。と。さ。ら。お。不。守。成。陸。と。い。ふ。後。と。い。ふ。と。る。ま。ま。某。が。才。の。上。と。語。り。受。せ。ぬ。と。小。栗。殿。へ。ま。り。て。后。見。小。栗。殿。高。瀬。を。は。り。姫。君。を。尋。ま。な。く。せ。小。栗。殿。と。誓。婚。を。し。ま。な。く。せ。ん。と。い。ふ。國。戸。と。い。ふ。ま。ま。の。漁。師。と。なる。武。州。六。浦。の。里。に。居。り。只。顧。姫。君。の。由。去。向。を。搜索。す。と。い。ふ。秋。不。意。姫。君。我。家。に。宿。り。の。ま。い。し。我。妻。を。浪。妻。と。い。ふ。小。栗。の。大。殿。の。妾。と。も。知。ら。ず。あ。り。し。が。い。ふ。は。仔。細。に。各。告。ぐ。ん。姫。君。と。名。告。ぐ。は。し。小。栗。判。官。と。の。再。連。添。人。と。腹。辱。す。と。い。ふ。邪。々。と。い。ふ。残。り。も。姫。君。と。



失んとて瀬戸橋の上にて始害せんとさる。危き免さるひ見小四郎の  
 跡めて妻を我より殺しつ。さて又兄の小四郎の姫君なりと云  
 知りませし。世に代國戸小雀はと。跡めて姫君なることを。知りませして先非を  
 侮り。身價を我より支は在家を捜索はかり。此金りては身を償ひ小栗  
 の母奉養まよと。これく。粧して生害せりと。さて小四郎又驚る。さるる我父死  
 のあや。嗚呼志はし。うりとさるるに。流涕してぞ嘆たる。汝が嘆さるるこ  
 と。あがら。此后の物語を熟く。さて亡父の志氣を續る。これお上と孝まはし  
 くと。静めて社笠稱と。流く。又も流り。さて。まよりの今。成るる。受  
 納めて。行急を。捜索して。今日此所へ。巡り。まよ。不料も。姫君の。心。宿。一  
 夜の宿と。乞はる。兄小四郎が。神聖の。行。と。さる。宿借。の。一。夜。姫  
 君。な。る。も。我。ハ。知。し。て。め。り。を。れ。再。て。之。の。回。向。と。さ。る。席。は。流。行。し。ま。し。ひ。一。夜。  
 奈何ある法諱と神主とさる。故殿名武光君は主婦もく。ありし。ら。ば。  
 さいの姫君もては。まよと。と。始名告。す。と。想。ひ。し。つ。ま。も。家。主。居。ら。ぬ。と。  
 笑へまよ。ら。小栗殿。入。居。ら。ぬ。や。還。り。め。り。ん。そ。付。お。名。告。ん。と。お。め。と。  
 念。し。は。さ。あ。ら。ぬ。辨。めて。流。経。さ。る。ら。ち。め。も。故。殿。の。心。奉。を。思。ひ。つ。ま。ま。と。  
 我。も。め。め。ら。心。頓。み。涙。の。ち。あり。落。る。を。物。お。終。ら。し。め。じ。ふ。布。施。を。と。初。心。  
 此。鏡。の。北。方。の。お。る。ふ。唐。鏡。も。差。り。極。が。い。よく。姫。君。を。り。け。り。と。此。鏡。が。せ。や  
 物。よ。し。空。観。ひ。ら。る。何。と。か。く。故。殿。の。面。影。も。は。甘。が。懐。旧。の。涙。も。ひ。れ  
 ぶ。さ。の。公。苦。しく。ゆ。や。ふ。草。卧。ぬ。と。俯。つ。て。臥。ふ。再。入。り。忍。音。も。泣。に。居。は  
 折。ろ。不。圖。も。万。平。と。か。ら。ん。云。り。の。身。の。て。ま。辨。り。姫。君。を。行。く。と。行。ん。と  
 せ。短。へ。恰。好。小。を。弄。還。り。ま。て。姫。を。支。へ。止。め。ん。と。こ。れ。い。も。カ。お。あ。び。な。さ。と。  
 身。價。今。も。さ。し。ま。ま。の。難。儀。も。及。か。紙。門。ご。お。見。え。ま。う。ら。く。さ。の。時。こ。と。



小栗巻之九



あいの遺金をとて  
女主人の身を贖う

照天

万平

小栗巻之九

十七

兄の最期の一念を遂る時を託し、まがも黄令をりて投て文姫の血を償ふ  
 べ。これりて兄が才の科を免はし、へいやく平伏を姫の涙とせしむる世よるに  
 奴家と主と想ひ、あむさぞおまへでおるもの。ゆて怨ごとく、しんまき元は心竟奴家  
 が愚より、ちゆうじん忠臣あるを知らずして、せと津戸橋の危難の附名をさへねゆるを  
 りて非業の死をうばはし、そのつとそのつとくふ其罪を奴家がうへぬを  
 か。小四郎の靈此所在、いま今の言徳をよく、あぢとちゆう孫汝が孤忠のころは、  
 感謝をいつし、あま嗚呼、あや香しく云はして、あや跡の涙も理もなし。小女、小女、  
 友人の姫の辞をうち、ま父の悲しみの中、あまれ喜び、あま涙を拂とさるるは、  
 この冥加の命、あや只今宣ふは、あま語を、あま草葉の蔭まで、あま小四郎の冥加  
 ありと承らん、あま我が才よ志ごとく、あまいと畏くも、あまありくと、あま幾許回か、  
 姫の仁意の念根を感佩して、あまと泣き、あま照天姫の姻、あま涙を双の袂

あて、あまおし、あま試ひ、あまは、あまま、あまつ、あまり、あまの、あま汝等、あま一族、あま甲斐、あまる、あまれ、あま奴家、あまが、あま忠、あまに、あま我を、あまる、あまに、あまま、あまの、  
 艱苦を予はせ、あまと。小女が今の物徳、あまお、あま承らん、あま知りぬ、あま今宵、あま不、あま料、あまお、あまん、あま又、  
 宿。ま、あまと、あま及、あまび、あまの、あま父母、あまの、あま霊、あまより、あまして、あま此、あま才、あまお、あま幸、あまと、あま下、あまり、あま多、あまく、あま幽、あま冥、あまお、  
 め、あまて、あまの、あま斯、あまむ、あまり、あま神、あま霊、あまの、あま在、あまり、あま又、あまら、あまく、あま陽、あま府、あまお、あまは、あま一、あまま、あまを、あま其、あま所、あまへ、あまな、あまと、あま明、あまら、あまん、あまか、  
 り、あまと、あまぶ、あまり、あま元、あま馬、あまの、あま道、あまの、あま坂、あま東、あまよ、あまも、あまゆ、あまり、あま世、あま「武士の横山、あまづ、あまね、あまあ、あまり、あまと、あま非、あま業、あまの、  
 死、あまと、あま遂、あまま、あまひ、あま」、あまと、あまと、あまい、あまと、あまい、あま今、あまお、あま在、あまらん、あま奴、あま家、あまと、あまれ、あまも、あま知、あまら、あまず、あまと、あま横、あま山、あまよ、あまま、あまの、あまま、  
 爾、あまの、あま縁、あま政、あまも、あまて、あま斯、あまむ、あまり、あまと、あま横、あま山、あまよ、あま誘、あまり、あまと、あま相、あま摸、あま路、あまの、あま控、あま院、あま堂、あま村、あまの、あま隠、  
 づ、あまひ、あま」、あまと、あまと、あま話、あまの、あま首、あまと、あま母、あまの、あま病、あま死、あま助、あま重、あまお、あま還、あま會、あま毒、あま酒、あまの、あま危、あま難、あまめ、あまく、あま夫、あま婦、あまは、あまり、  
 ぞ、あま后、あま乃、あま長、あまが、あま許、あまよ、あま賣、あま償、あまされ、あま再、あまび、あまま、あまよ、あま還、あま會、あま今、あま又、あまこ、あまら、あまお、あま承、あまらん、あまと、あま終、あまり、あまお、  
 きて、あま物、あま結、あまれ、あまべ、あま小、あま乃、あま郎、あまも、あま主、あまの、あま小、あま栗、あまが、あま才、あまの、あま上、あまと、あま決、あまり、あま又、あまと、あま小、あま乃、あまの、あま姫、あまの、あま流、  
 命、あまと、あまゆ、あまり、あま哀、あましく、あま涙、あまよ、あまこれ、あまは、あま備、あまひ、あまて、あま居、あまり、あまか、あま又、あま果、あまて、あま后、あま靜、あまず、あまよ、あま哀、あまら、  
 命、あまと、あまゆ、あまり、あま哀、あましく、あま涙、あまよ、あまこれ、あまは、あま備、あまひ、あまて、あま居、あまり、あまか、あま又、あま果、あまて、あま后、あま靜、あまず、あまよ、あま哀、あまら、

かまろ幾回嘆賞おしと云つるを尋ねの女性なりせむ。いづて爾を寵雅お  
 博のなき実や姫君の四通五達降の授ふと承る凡なうさほがゆゑこそ  
 苦節を守りしむる。此物流すまじくの危きもの多おと脱きまらむを  
 正足親音菩薩の冥助し。かほ慈護のめらるれば。中て運も奈くじ。  
 公衆し。おほせよと云ふこゆまが照天姫奴家武運かあるひる。夫助を  
 と徳ともお模山一色二人の能討て小栗と名武の家は寛罪の巧名と聖  
 后我夫再び世も出が。おとらう功とも賞し。夫婦を従今の憂と昔流  
 おみらんふ力を助けて志まは。果してよ人と云ふ山分も小栗所も。  
 首をむけてさくのを殺す。この命すでもゆらと。破れ此方の内將也。かろはる  
 こそものいふ厭えを強くおほせよと回意果て小栗所へ小分お討しむ  
 云々の所は其熟く思惟とる。あつ万平姫の存在とまのいふらる近も。

